



じしゅう どうこうさん
時宗 東岡山

福田寺だより



ホームページ



公式
LINE
で
たま
まE

紅葉と人生

【写経会：11月27日 午後2時より4時まで受け付け】

ご参拝の際は、マスクの着用、体調確認のご協力をお願いします。

*京都府下に緊急事態宣言が出されていた場合は中止します。

秋も深まりを見せ、これから紅葉が楽しみな季節がやってまいります。紅葉は葉っぱの老化現象とされるようで、日照時間の短い冬は水分を逃がさないように木から葉が落とされます。その前段階として葉を緑に見せている色素が分解され黄色く見え、また新たにアントシアニンという赤い色素が作り出され、紅葉が完成するそうです。古語では紅葉することを「もみづ(揉み出づから)」といい、これが名詞化され「もみぢ(じ)」になったそうです。

かの良寛禅師が「裏を見せ 表を見せて 散るもみぢ」と詠まれたように、紅葉は鮮やかな色彩の変化を見せる反面、散って生を終えるという儚さを持ち合わせています。老化現象があるのも人の生涯と似ていますね。ところで、お釈迦様がいらっしゃった頃のインドでは、人生の理想の在り方として「四住期」が考えられました。

がくしやう
学生期…先生や師匠に学び、学生として勉学に励む

かちやう
家長期…家の主として家族を支える

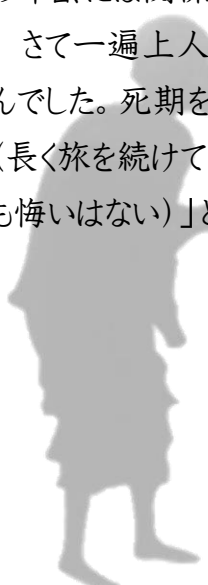
林住期…人里離れた山林で修行し真理を求める

ゆぎやう
遊行期…一所不住の旅をし、身につけた真理を人々に布教し利益を与える

の4つです。お釈迦様や一遍上人もこの四住期になぞらえられるような生涯を遂げられています。特にお二方に関しては最晩年の遊行期が非常に長いことが特筆されます。お釈迦様の遊行期間は45年間、一遍上人も16年間、共に亡くなるまで遊行を続けられました。

現代の私たちに林住期や遊行期を徹底するという事は簡単ではありません。しかし日々忙殺される中で参考にできる意味合いはあるのではないかと思います。例えば、林住期のように自分の内面を見つめることを大事にし、遊行期のように他人の利益になることを心掛ける、と言うようなことです。実際の年齢には関係なく、思い立った今実践するという方が仏教らしいのではないかと思います。

さて一遍上人は色濃い紅葉のような晩年を過ごされましたが、その身命に執着されることはありませんでした。死期を悟られた和歌には「旅衣 木の根かやの根 いくづにか 身の捨てられぬ 処あるべき (長く旅を続けてきた我が身であって、木の根元であれ茅の根元であれ、どのような処で最期を迎えても悔いはない)」と詠まれました。誠に「捨聖」と称えられるべき金言であります。 合掌



ツワブキ



十一月限定御朱印